

モエの旅行



山北の入来町にも、老後を都会の喧騒を忘れてのんびり過ごしたいと故郷に戻って来る家族がチラホラいる。かく言う私達夫婦もその仲間である。地元に残って働いて来たSさんの提唱で、帰郷組の三家族とモエという会を持つことになった。五年前のことである。会員は夫婦単位で、隔月に各家々の持ち回りで開く。会費は一人五百円、その都度一家族五千円を積み立てて旅行資金にする、といったことで、夕食後集まり、簡単なおつまみで、一杯やりながら三時間ほどよもやま話に花を咲かせるのである。それがいざ旅行となると、二家族が老人を抱えていて、夫婦共には外泊が出来ない。三年前は女性だけで阿蘇、天草の一泊旅行をしたのだが、やはり夫

婦一緒が望ましい。貯金も三十万円になった。外泊できないのなら日帰りでも何処かということになって、計画は全て私に一任されたのだった。

私は勇んで、九州の観光案内をパラパラとめくり、人吉の史跡見物の後、一勝地温泉で宴会というプランを立てた。実は私はこの手のことは得意で大好きなのだ。

Sさんに運転手を探してもらって、十人乗りのクライニングシート付きのレンタカーを予約した。一勝地温泉「かわせみ」に特別料理も注文しておいた。

ただ老人を抱えていると、日帰り旅行さえも難しいことがある。Mさんのお母さんのお守かたがた留守番をする予定だった近くにいる息子さんが都合が悪くなったということで結局M夫人が残らねばならなくなった。残念だったがこの際は決行することにした。

師走の日曜日、朝九時に入来町出発。運転手は近所の床屋さん。書き入れ時なのに先輩の頼みには弱

かつたようだ。私は地図を持って助手席に坐る。車は座席が高くクッションも柔らかいので快適である。

横川に出て高速に乗り、人吉まで一時間二十分。

先ず第一の目的地の願成寺に予定通り到着。折よく大黒さんがいらして、丁寧に説明して下さった。

人吉城の鬼門に建てられた真言宗のこの寺は、広大な伽藍であったが西南の役で土蔵一つ残して灰塵となつてしまつたとのこと。重要文化財の不動明王の像や、平安時代の有名な仏師定朝の作の阿弥陀如来像が拝観出来たことは幸せであつた。外に出ると新しい立派な鐘楼が建造中であつた。太い柱など全て檜とのこと。近くの人に聞くと、費用は全て檀家の寄進によるとのことであつた。

裏手は相良家墓地であつた。銀杏の落葉の黄色い絨毯で覆われた石段を登ると、ずっしりとした大きな石で造られた五輪塔の墓石がきちんと整列して、それが何十基も何列にも並ぶ。七十七年前からの歴代の墓は、ただ壯観というばかりであつた。

次は青井阿蘇神社。桃山時代の茅葺きの山門の見

事さ。神殿も重厚な茅葺きである。

そろそろお腹も空いて案内書にあつた松田つなぎ屋で昼食。一息入れて午後は永国寺に向かう。

永国寺はその山門がまだ新しい。仁王様まで新しく彫り上げてある。こんな立派なものを造り出す人は裕福な所なのだろう。

永国寺は、西郷隆盛が田原坂で破れた後、薩軍の本陣となつた所であつた。三十余日をこいで過ごし、毎日軍議に明け暮れていたとのことで、隆盛自筆の漢詩の軸があり、その前には砲弾が置かれてあつた。この寺もその戦に幽霊の掛軸一本残して全焼してしまつたとのことであつた。

この地の寺々は廃仏毀釈ではなく、西南の役で全てを失つたのだ。しかも西郷さんに何の恨みもなく顕彰の碑を建てたり、書を飾っている。鹿児島の人達には嬉しいことだ。しかも人吉では、西南戦争の五六年後には、もう寺の再建に取りかかっているのだ。鹿児島とは何かが違うと思う。

見物はここまでで後は一勝地温泉へまっしぐら。

途中長い銀杏並木があつて、真つ黄色の葉に蒼むした緑の幹がおとぎ話の世界の様に美しい。と一陣の風に一斉の銀杏吹雪。皆わつと歓声を上げた。

一勝地温泉は球磨川べりの山深い所にあつた。日曜日なので外来や団体客などで混雑していた。温泉はやや強めのアルカリ泉で、肌はスベスベになる。いよいよ皆が楽しみにしていた宴会である。お料理は知人のお勧めだけあつて、なかなか手の込んだものが次々と運ばれて、味も良く皆大満足だつた。

六時前に帰途に着いたのだが、レンタカー返却の期限の八時迄にはきびしい時間であつた。しかし床屋のお兄さんは、スイスイと抜いてほぼ定刻に帰宅出来た。

全員、人吉に行つても球磨川下りで終わつていて、寺社巡りは初めてだという。料理も良かったし大成功。後は参加出来なかつたM夫人の残念会を女性だけで開くことにして、残金は返却。ポーナスの無い私達には思いがけないプレゼントとなる。田舎の生活にもささやかながら楽しいことがある。